

JR烏山線を基軸とした地域交流の拡大に向けた取り組み  
 ～『烏寶線鉄道唱歌』の解明成果と『地域資源回遊マップ』の製作過程を踏まえて～

**市民ワークショップの企画と開催①**  
**ワークショップの概念とその目的**

『烏寶線鉄道唱歌』はこれまで流布していない資料であり、その解明を通してJR烏山線沿線の自然および人文に係わる地域様態の推移と変容を把握するとともに、地域の本質・その土地の根底にある“根っこ”の部分の掘下げながら、地域の魅力情報を把握する材料になり得るものである。この唱歌の解明成果を踏まえ活用手法の検討を行い、その活用として『JR烏山線を基軸とした地域交流の拡大』に向けた取り組みを行うこととした。この取り組みは、地域を構成しこの土地で暮らす地域のみなさんと一緒に、地域の未来を見つめる取り組みであることを基本にしている。そこで、市が有する地域資源（地域の魅力・地域の誇り）を共有することを目的に、市民ワークショップを開催することとした。ワークショップとは、課題解決の一手法として近年盛んに実施されており、参加者の多様な異なる意見をまとめる（合意形成する）ための手法である。今回は、『烏寶線鉄道唱歌』の発掘とその解明成果を踏まえ、地域交流機会の拡大に向けた具体的な活用手法を検討することが目的である。そのため、市民ワークショップを3回開催し、①『烏寶線鉄道唱歌』の周知と浸透、②昭和5年当時の地域資源の確認と現代の地域資源の抽出、③『現代版鉄道唱歌』制作の検討を行った。

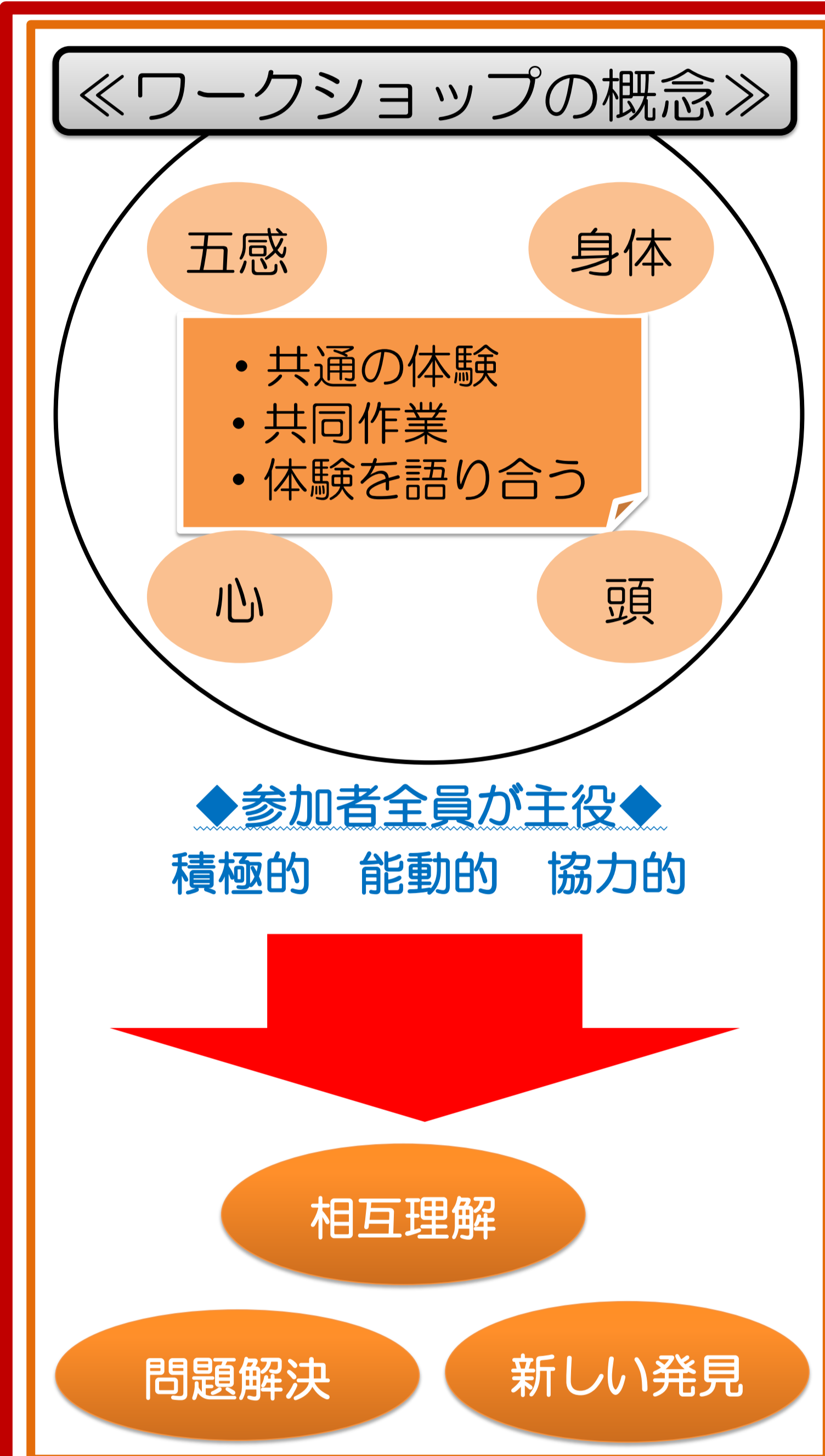


図1 ワークショップの概念

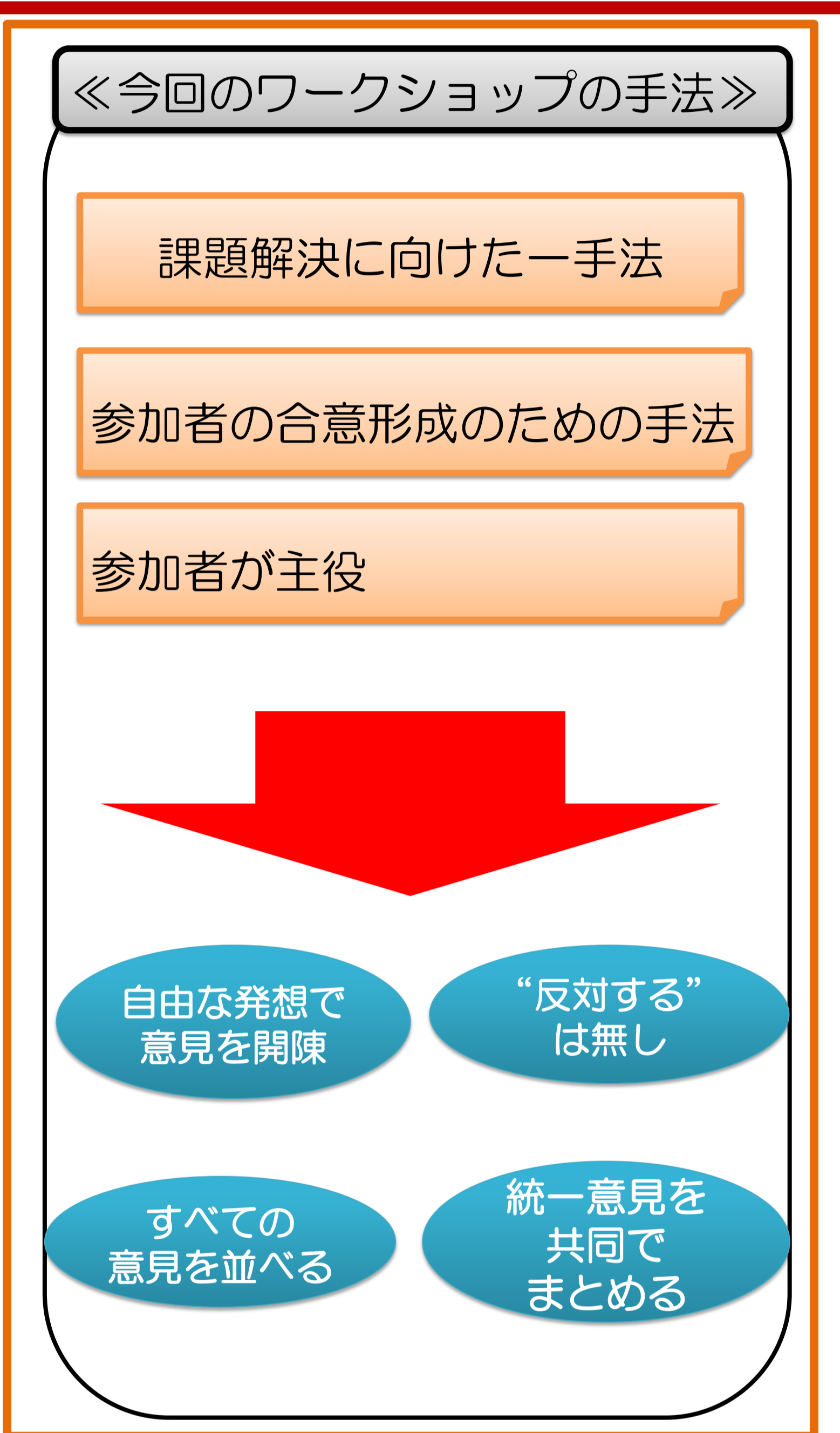


図2 今回のワークショップの考え方

(<http://square.umin.ac.jp/zenjin/WhatsWorkshop/WhatsWorkshop.html>を基に加筆)

市民ワークショップとフットパスが、県民文化課発行の『協働のひろば』（平成27年12月22日）にも取り上げられました。

第8号  
平成27年12月22日発行  
栃木県民文化課県民協働推進室

**協働のひろば**

今年から12月が「寄付月間」になったまる！  
 「欲しい未来へ 寄付を贈ろう～Giving December～」  
 詳しくはこちらを見てほしいまる⇒<http://giving12.jp/>

**協働事業レポート** ～協働によるストーリー・リズム創出の試み～  
 「烏寶(うほう)線鉄道唱歌」を活用したフットパス企画」

※フットパス：イギリスで生まれ、『森林や田園地帯・古い街並みなど、地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと【Foot】ができる小径（こみち）【Path】』のこと

★事業実施のきっかけ  
 那須烏山市では市の活性化のため、県内の4大学、烏山高校、商工会等と「まちづくり研究会」を設置しています。メンバーである足利工業大学福島研究室が、昭和5年頃に作られた「烏寶線（現在のJR烏山線）鉄道唱歌」を入手したことがきっかけで、幻の唱歌をJR烏山線沿線の歴史・文化とともに地域資源と捉え、物語性のある地域の魅力発信に取り組みこととなりました。

★協働の内容  
 ○協働のメンバー 足利工業大学と烏山高校（県教委：未来創造推進事業「地域資源活用プロジェクト」指定校）が中心となり、市、NPO法人野うさぎくらぶ、観光ボランティアの協力を得て実施となりました。  
 ○フットパス企画実施までの取り組み  
 (1)市民ワークショップの実施（3回）⇒市民の巻き込み  
 「鉄道唱歌と周辺地域の失われた景観・口伝等の収集」、「現代の地域資源の抽出+フットパス企画」、「現代版烏山線鉄道唱歌の制作」をテーマに、市民参加ワークショップを開催しました。その成果は「地域資源マップ（昭和5年版+現代版）」としてとりまとめています。  
 (2)フットパスコースの検討⇒大学生と高校生のコラボレーション  
 平成27年8月に、大学生と高校生が鉄道唱歌が登場する場所や各駅周辺の歴史遺産を巡り、調査を行いました。市やNPOもコース設定の検討に加わり、地域の歴史・文化の豊かさを参加者に十分理解していただけるよう様々な面から検討が行われました。  
 ○いよいよフットパス実施！⇒「地域資源回遊マップ」づくりへ  
 フットパス企画は8月下旬から9月にかけて合計3回実施され、各回公募の約20名が参加しました。コースは4コース設定されており、烏山駅、滝駅、小橋駅、大金駅を起点に、龍門の滝や山あけ会館などの有名スポットの他、那須烏山市に残る「土木遺産」や「近代化遺産」など隠れたスポットを歩きました。  
 参加者には「JR烏山線沿線の地域資源回遊マップ」づくりのための「宿題」（感想・紹介文作成、スケッチ作成、駅から目的地への時間・距離）が出され、楽しみながらも真剣に記録をまとめていました。マップは現在作成中です。完成が楽しみです。

★特にこの協働が素晴らしい！  
 工業大学の強みを生かしつつ、大学と地元高校が主体となって地域資源の掘り起こしを行っていること。また、市民ワークショップの実施、フットパス参加者への「宿題」を通して、広がりのある巻き込みを実現していること。

観光ボランティア等から歴史的価値等について説明を受けました。

※二情報：烏寶線鉄道唱歌全文や唱歌に関する研究が気になる方はこちらをご覧ください⇒  
[http://www2.ashitech.ac.jp/civil/fukushima/2014\\_1\\_2.pdf#search=7E78358F%5F5A%5F6E787B79A](http://www2.ashitech.ac.jp/civil/fukushima/2014_1_2.pdf#search=7E78358F%5F5A%5F6E787B79A)

＜市民ワークショップの様子 市役所烏山庁舎＞



■第1回：市民に向けた『烏寶線鉄道唱歌』の周知と浸透

■実施内容（以下の内容について情報収集を兼ねたヒアリングを行う。）

- ①同唱歌が生まれた背景や歌詞の裏付け。
- ②歌詞から読み解く昭和時代の烏山地域の風景とは。
- ③昭和時代の烏山線とは？  
 または、それにまつわる江エピソードや具体例など。
- ④唱歌が制作された当時の烏山を代表する地域資源や産業など。  
 また現代まではどう変化したか。

■第2回：『現代の地域資源の抽出』

■実施内容

- ①現代の烏山線沿線地域の地域資源の抽出。
- ②「これこそ烏山の地域資源！」と思われるものの提案。
- ③上記①②で挙げられた地域資源にまつわるエピソードの収集。

■第3回：“現代版烏山線鉄道唱歌”の検討

■実施内容

- ①歌詞に組み込むべき要素として、地域資源はじめ地名
  - ・景観・歴史および文化情報などを選定
- ②取り上げる資源等を読み込む際の内容を検討
- ③選定した要素を“現代版烏山線鉄道唱歌”の文脈構成の検討